

教 育 研 究 業 績

氏名：土屋 佳雅里

学位：修士（人間文化科学）

研 究 分 野

研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド

言語学（外国語教育）、教育学（教員養成）、外国語教育に関する実務（小学校外国語教育）

小学校外国語教育、教科教育学（英語）、文化（映画）と教育

主要担当授業科目

小学校教職課程（外国語の指導法、外国語）、外国語（英語）Ⅰ・Ⅱ、英語リスニング演習Ⅱ、子ども問題海外研修

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例	令和2年4月～令和3年	オンライン授業において、Microsoft Team を使用。同時双方向型（同期型）授業形態で実施。課題提出・授業連絡・学生との連絡・小テスト・課題コメント提出・成績管理等で活用。チャット機能においては、学生と教員間でのコミュニケーション・ツールとしての役割も果たす。
2 作成した教科書、教材	平成29年4月～	『小学校英語指導者のポートフォリオ(J-POSTL エレメンタリー)』大学英語教育学会（JACET）教育問題研究会：小学校英語教育を担当する現職教員や小学校教職課程履修生が、自らの専門性を高め、成長するために活用する省察（振り返り）ツール。
	平成30年5月	「えいごセタノート」株式会社モリサワ 外国語科移行措置期間に活用できるユニバーサルデザインフォントを用いたペンマンシップ教材を作成。
	令和1年～	『Here we go!』光村図書 文部科学省：小学校外国語検定教科書。高学年の外国語科の教科化に伴い、新学習指導要領を具体化した教科書。デジタル教科書の編集も含む。
	令和2年4月	『ローマ字練習帳』正進社。小学校3年国語科ローマ字学習のペンマンシップ教材。外国語活動の英文字学習にも繋がりを持たせる画期的な内容。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 資格、免許	平成15年4月	NPO 小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）小学校英語指導者資格
	平成19年4月	NPO 小学校英語指導者育成トレーナー資格
	平成29年3月	中学校教諭 専修免許状 外国語（英語）（免許状番号：平二八中専第三五〇号）
	平成29年3月	高等学校教諭 専修免許状 外国語（英語）（免許状番号：平二八高専第四二四号）
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項	平成15年4月～令和2年3月	東京都杉並区立小学校 英語講師：外国語活動に従事、学級担任とのティーム・ティーチングによる授業、年間指導計画及び毎回の指導案作成、校内研修、放課後（居場所作り）課外活動など

平成 15 年 4 月 ～令和 2 年 3 月	小学校教員研修 教育委員会の依頼を受け、または民間企業を通して、小学校、中学校教員を対象に、小学校英語についての教員研修を担当。理論（講義）、スキル指導、指導案作成、研究授業の評価、実施等を受けての協議時の講師、指導案集開発等の業務を担当。（東京都杉区・新宿区・西東京市、神奈川県川崎市、福島県など）
平成 15 年 4 月 ～平成 27 年 3 月	自営教室で幼稚園～成人まで幅広く指導。英会話、資格試験対策、読み書き指導等。
平成 15 年 4 月 ～平成 21 年 3 月	幼稚園・保育園での英語指導。指導カリキュラムの開発担当、指導者研修講師兼任。
平成 17 年 4 月 ～令和 2 年 3 月	アルク（J-SHINE 小学校英語指導者資格 取得研修講座） アルク社による、J-SHINE 資格認定講座の講師。主に、指導案作成の手順、小学校での指導上の注意、各種アクティビティ（歌・絵本・ゲーム等）のワークショップを担当。
平成 20 年 6 月 ～平成 22 年 6 月	教育支援協会（J-SHINE 小学校英語指導者資格取得研修講座） 教育支援協会による、J-SHINE 資格認定講座の講師。講義内容としては、指導案作成の手順、小学校での指導上の注意、各種アクティビティ（歌・絵本・ゲーム等）のワークショップ等。
平成 18 年 9 月 ～令和 2 年 3 月	J-SHINE 資格保持者に対する研修講座の運営、講師を担当。時勢に応じた小学校外国語教育の情報提供、理論（講義）、スキル指導など。
平成 25 年 12 月 ～令和 2 年 3 月	J-SHINE トレーナー主催小学校英語セミナー in 東京 J-SHINE トレーナー主催による、J-SHINE 資格保持者に対する研修講座の運営、講師を担当。時勢に応じた小学校外国語教育の情報提供、理論（講義）、スキル指導など。
平成 29 年 12 月	小学校英語の理念、理論、実践講座。2018 年から移行措置期間に入り、2020 年に向けて変わりゆく小学校英語に備え、これまでの英語教育と何がどう変わるのか？その全体像は？実際にどう教えるのか？指導者は何を学び、何をどのように教えたらいのか？を講義。
平成 30 年 5 月 ～平成 31 年 4 月	株式会社リンク・インタラック こども園英語レッスンカリキュラム開発、受託業務
平成 30 年 5 月	民間企業（大手 ALT 派遣業）での、小学校外国語活動を担当する ALT を対象とする、新学習指導要領に準じる絵本指導。デジタル絵本の活用、授業での絵本読み聞かせや、読み聞かせ中の児童とのやり取りのテクニック等を指導。
平成 30 年 5 月	株式会社モリサワ セミナー 「新しい小学校外国語教育へ ひとりひとりが生きる文字指導を！ 一移行期間に使える教材の提案」
平成 30 年 6 月	アルク「小学校の英語教育 これからセミナー」－【第 1 回】英語教科化までと、「これから」－
平成 30 年 6 月	「2018 年度春学期 上智大学コミュニティカレッジ（公開講座）「小学校英語教育入門」第 2 回（於：上智大学）」
平成 30 年 12 月	「2018 年度秋学期 上智大学コミュニティカレッジ（公開講座）「小学校英語教育入門」第 2 回（於：上智大学）」

	平成 31 年 6 月	「2019 年度春学期 上智大学コミュニティカレッジ (公開講座)「小学校英語教育入門」第 2 回 (於: 上智大学)
	令和 3 年 3 月 28 日	正進社「小学校におけるアルファベットのライティングベーシック講座」(オンライン)
4 その他	平成 22 年 6 月	アルク通信講座 「ヒアリングマラソン・ジュニアシリウス」アルク社の小学生むけ通信講座の開発に関わり, 主に教材のアイデア協力。
	平成 28 年 9 月	『英語教育』2016 年 9 月 Vol.65 No.6 pp.90-91 書評『日米ボディートーク身ぶり・表情・しぐさの辞典』
	平成 29 年 10 月	『英語教育 2018 年 10 月増刊号』2018 年 10 月 Vol.67 No.8 pp.72-73 書評【英語教育図書】「英語教育・今年のベスト 3 <その 2>」
	平成 30 年 2 月～平成 31 年 2 月	アルク HP 連載「小学校で教えるということ 心得 × 12 Tips」
	平成 30 年 10 月	光村図書「先生のための小学校英語 ABC TRY! クラスルーム・イングリッシュ」光村図書による, 主に小学校教員を対象とした授業で使えるクラスルーム・イングリッシュのフレーズとポイントを動画で分かりやすく解説する。企画から動画出演など一連の作業を担当。
	令和 2 年 6 月～令和 2 年 8 月	光村図書 HP 「英語教育相談室 【2020 年特別号】 コロナに負けない授業づくりをサポート!」「感染予防に配慮したコミュニケーション活動の提案 【第 1 回】～【第 3 回】」 https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s_eigo/sodan/2020special/index.html
	令和 4 年 8 月	光村図書 HP 「夏休み! 子どもと楽しむ英語学習 3 つのアイデア」 https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s_eigo/idea_2022s/index.html

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1 『小学校英語はじめてセット』	共著	平成 21 年 9 月	アルク社	英語活動(当時)において, 文部科学省発行の副教材『英語ノート』を活用した授業展開の方法を紹介。【全ページ数】124 ページ【本人担当・執筆ページ】p.5, pp.11-16, pp.18-38, pp.40-53, 付属教材(絵カード, 世界地図, DVD, CD)【共著者名】吉田研作, <u>土屋佳雅里</u>
2 『教室英語ハンドブック』	共著	平成 28 年 1 月	研究社	小学校英語に対応し, 場面別, 授業展開別に教室英語を紹介。【全ページ数】190 ページ【本人担当・執筆ページ】pp.2-23, pp.157-173【共著者名】高梨庸雄, 小野尚美, <u>土屋佳雅里</u> , 田縁真弓

<p>3 『小学英語から中学英語への架け橋 —文字教育を取り入れた指導法モデルと教材モデルの開発研究』</p>	<p>共著</p>	<p>平成 29 年 3 月</p>	<p>朝日出版</p>	<p>ニュージーランド発、英語圏の国々の小学校で、落ちこぼれた児童の読み書き能力を回復するために効果を上げている Reading Recovery Program について詳細に紹介し、その基本理念である emergent literacy と roaming around the known を日本の文脈に沿い、また小中連携を目的とした、小学生の英語指導に応用するための試案。 【全ページ数】256 ページ【本人執筆・担当ページ】 pp.160-161, pp.185-201【共著者名】高梨庸雄, 小野尚美, <u>土屋佳雅里</u></p>
<p>4 『先生のための小学校英語の知恵袋 —現場の『?』に困らないために— 』</p>	<p>共著</p>	<p>平成 30 年 7 月</p>	<p>くろしお出版</p>	<p>第1部では、小学校英語の授業における子どもたちや先生からの悩みに分りやすく回答。第2部では、英語の学びをより広く深く理解できるよう、特に、2020年からの新しい指導体制で注目される「読み書き（文字）指導」の意義や指導をする上で備えておきたい知識や具体的な指導例を掲載。【全ページ数】248 ページ【本人執筆・担当ページ】pp.iii-v（まえがき）, pp.2-4, p.104-106, pp.142-159、イラスト【共著者名】 酒井志延, 久村研, 萱忠義, <u>土屋佳雅里</u>, 安達理恵, 阿部志乃, 樫本洋子, 北野ゆき, 竹田里香, 成田潤也, 長谷川和代, 松延亜紀, 諸木宏子, 安田万里, 行岡七重</p>
<p>5 『小学校 教室英語ハンドブック』</p>	<p>共著</p>	<p>平成 31 年 2 月</p>	<p>光村図書</p>	<p>授業で使える教室英語をコンパクトに紹介した、学級担任の先生むけの本。あいさつやほめる表現から、ALT との打ち合わせで使う表現など、すぐに役立つフレーズを精選。【本人執筆】理論編、実践編など全般【共著者名】向後秀明、<u>土屋佳雅里</u>、ジョージ・クマザワ、菅井幸子</p>
<p>6 『映画で学ぶ英語の世界 —スーパーヒーロー・マザーグース・ギリシャ神話』</p>	<p>共著</p>	<p>平成 31 年 5 月</p>	<p>くろしお出版</p>	<p>ヒーローと悪役、マザーグース、ギリシャ神話という3つの切り口から、英語の文化背景に迫る。 【本人執筆】ギリシャ神話、イラスト（表紙、本文）【共著者名】酒井志延、小林めぐみ、鳥山淳子、<u>土屋佳雅里</u></p>
<p>7 『ワクワクする小学校英語授業の作り方』</p>	<p>共著</p>	<p>平成 31 年 8 月</p>	<p>大修館書店</p>	<p>第1部では、小学校英語の授業における子どもたちや先生からの悩みに分りやすく回答。第2部では、ワクワクする英語授業のコツやノウハウを、5人の著者により詳しく紹介。【本人担当】編集、第1部Q&A執筆、イラストなど【共著者名】酒井志延, 久村研, 萱忠義, <u>土屋佳雅里</u>, 阿部志乃, 樫本洋子, 北野ゆき, 竹田里香, 成田潤也, 長谷川和代, 松延亜紀, 諸木宏子, 安田万里, 行岡七重, 若松里佳</p>

<p>8 『『小学校英語指導者のポートフォリオ』J-POSTL エレメンタリー 教職課程における活用実践』</p>	<p>共著</p>	<p>令和4年3月</p>	<p>桐文社 全151ページ</p>	<p>省察ツールである『小学校英語指導者のポートフォリオ』(J-POSTL エレメンタリー)の活用事例集であり、以下が主旨である： 英語指導者が自分の置かれた教育現場によって、内容を選んで使用することを期待して、 (1) reflection tool としての J-POSTL の理念・目的・意義／小学校学習指導要領とコアカリキュラムとの整合性／コアカリキュラムの教職課程の要件に則った使用法のガイドラインを作成。 (2) 背景が異なる大学での具体的な実践事例をまとめて、付属の指導マニュアルとして利用者に提供。 【全ページ数】151 ページ【本人担当】pp.72-81 【共著者名】(編者) 米田佐紀子、山口高領、長田恵理、(編集・運営委員) 米田佐紀子、山口高領、長田恵理、高木亜希子、中山夏恵、安達理恵、<u>土屋佳雅里</u> (執筆者) 安達理恵、岩中貴裕、長田恵理、榎本洋子、加藤拓由、高木亜希子、竹田里香、<u>土屋佳雅里</u>、永倉由里、中山夏恵、Benthien、Gaby、山口高領、米田佐紀子</p>
<p>9. 『「言いたい」が「言えた！」に変わる小学校英語授業 語彙力・表現力がぐんぐんのびる!』</p>	<p>共著</p>	<p>令和4年12月</p>	<p>大修館書店 全</p>	<p>本書は英語学習での語彙・表現力を伸ばすことが狙い。英語学習に必要な基礎体力づくり、タブレットが支給されているからこそその ICT の使い方、プロジェクト学習に至るまでの外国語学習のスキルを高めるための指導法を掲載。学習者だけでなく指導者も苦手とする語彙・表現学習に対して、学習者・指導者いずれも意欲的に取り組めるように幅広く豊かな学びからのアプローチを搭載。 【本人担当】監修。執筆、「第1部 英語学習の基礎体力をつける指導—文字、音、リズム—・Chapter3 絵本・物語を感情を込めて読む指導【実践】教科書の物語を深く味わい、感情を込めて読む」 「第3部 意欲的な語彙学習につながる主体的・対話的で深い学び執筆、Chapter5 異文化を理解する指導【国旗からのアプローチ】【実践】国旗から世界の国々を知る Words : 形 / 太陽 / クイズで使う英語 / 世界の国々 / 接頭辞 / 形状」 「第6部 ICT の活用—語彙学習のギアを上げる機械翻訳—、一部」執筆、イラスト (食物連鎖〈森編〉、食物連鎖〈海洋編〉〈淡水編〉ほか)、など 【共著者名】 酒井志延・土屋佳雅里 (監修)、成田潤也・北野ゆき・(編集)、阿部志乃・赤井晴子・三浦聡美 (執筆)</p>
<p>(学術論文)</p>				
<p>1 「言語・文化への気付きを深めよう 身近にあふれる言語・文</p>	<p>単著</p>	<p>平成29年3月</p>	<p>『英語教育』 Vol.66 No.1 pp.53-54</p>	<p>東京オリンピック・パラリンピックにむけた街の言語景観の変化、また、効果を高める ICT と本物 (authentic) の</p>

化への気付きを深める英語活動」(査読付)				教材を作成し、外国語活動で活用した実践報告。
2 「小学校外国語(英語)教育とローマ字教育の考察—外国語活動と国語科ローマ字学習の連携を考える—」(査読付)	単著	平成31年3月	『上智大学短期大学部紀要』第40号	2020年全面実施の新学習指導要領の施行目前に際し、小学校段階で英語の学習初期の読み書き指導を順調に進めるための方策として、国語科ローマ字学習と外国語活動との連携に注目し、今後の指導への示唆とすべく考察。
3 「児童の異文化間能力を育む活動事例の提案—移行期用小学校外国語教材『We Can!』を中心に—」(査読付)	共著	平成31年3月	『言語教師教育2019』Vol.6 No.1 pp.113-128	本稿では、移行期用教材から発展させたIC活動を3つ提案し、それぞれの活動の計画・実施の要点について考察を深めた。 【共著者名】中山夏恵、成田潤也、 <u>土屋佳雅里</u>
4 English Classroom Activities that Enhance Students' Intercultural Competence: Based on the New English Materials Developed to Align with the Revised Course of Study (査読付)	共著	平成31年6月	Language Teacher Education Vol.6 No.2 pp.62-82	In this paper, we propose three ICC activities developed from the new teaching materials. After assessing the student responses gathered after their participation in these practice lessons, we consider the pedagogical implications of delivering English lessons that can also enhance student ICC in Japanese elementary schools. 【共著者名】中山夏恵、成田潤也、 <u>土屋佳雅里</u>
5 「続・みんなで創る小学校英語「突如、授業が消えた。いま、考えたいこと。」(査読付)	単著	令和3年6月	『新英語教育』No.7 p.38	小学校外国語教育の実践で、2020年度からCOVID-19の影響により突然の休校措置が取られた状況に対する論考。授業が不可能になった反面、未曾有の事態によって感染防止と、コミュニケーションを図る資質・能力の育成とのジレンマに苦しむ中、外国語教育を外国語の言葉の教育として見直す猶予が与えられた。また、以前の価値観や体制への完全な後戻りは、もはや困難であり、新しい体制でできることを教師は精一杯行うしかない。暗中模索でも、まずは進むことが、詩人キーツの言うネガティブ・ケイバビリティ(不確実を受容する能力)であり、不穏の時代に重要な力にもなる。
6 「小学校国語科のローマ字指導と外国語活動・外国語科の英語指導におけるアルファベット指導の違いに関する研究レビュー—英語指導におけるローマ字指導の肯定・否定—」(査読付)	単著	令和2年12月	『日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要』第39号 pp.159-171	2020年4月から全面実施される新学習指導要領(2017)により、小学校教育において、国語科ではローマ字指導として、一方、外国語活動・外国語科では英語指導として、「アルファベットを用いる文字指導」(以下、アルファベット指導と称する)が2つの学習をまたぎ、並行して実施される。ここでは、はじめに、背景を述べていく上で重要な用語である「アルファベット」および「ローマ字」について述べた後、背景として、「国語科の日本語としてのローマ字指導」および「外国語活動・外国語科での英語としてのアルファベット指導」を概観。
7 「英語絵本の読み聞かせ活動を通じた教職履修生の意識の変容」(査読付)	共著	令和3年3月	JAAL_in_JACE T_Proceedings_Volume3_ver.2 pp.	本研究では、教職履修生の内希望者対象に、大学図書館内の児童室にて地域の子どもたちに向けた英語絵本の読み聞かせ活動を計画・実践し、学生の意識の変

				化を調査した。分散分析の結果、2回の調査間で自信の度合いについて変化は観察されなかった。一度限りの実践であったことが影響した可能性が指摘できる。一方、記述データからは、実践前に、児童の「内容理解(10件)」に集中していた意識が、実践後は、「雰囲気作り(7件)」や「児童の反応(11件)」の重要性に気付く様子が観察された。
8 「小学校外国語教科書の語彙分析 —語彙学習における学習ポートフォリオの有用性と活用—」(査読付)	単著	令和3年12月	『英語授業研究 学会紀要』 Journal of Teaching English [第30号] 2021 pp.85-97.	小学校外国語科(以降、外国語科)の検定済教科書(英語)(7社、15冊)は、各社で指導内容や方法等に特徴がある。言語学習で重要な語彙に注目すると、扱う数は600~700語相当と学習指導要領で示されているが、実際の学習語彙の選定は各社の裁量に任せられ、ばらつきがある。そこで、本研究では全国で8割以上のシェア率となる主要教科書(3社、7冊)を語彙レベルで分析し、外国語活動・外国語科の目標・指導内容等で参照されているCEFR(Common European Framework of Reference for Languages ヨーロッパ共通言語参照枠)に基づくELP(European Language Portfolio)能力記述文を参考に、自律した学習者を育成する外国語科の語彙学習を考察しながら、語彙学習における学習ポートフォリオの有用性と活用方法を提案する。
9 「「中学校へのパスポート(仮称)」作成に向けた予備調査」	共著	令和4年3月	『言語教師教育2019』Vol.6 No.1 pp.113-128	小学校卒業段階で付けるべき力をCan-Do自己評価記述文として示すことで、到達目標が明確化されるとともに児童と教員が共有できる「パスポート」は自己評価が主体的な学びにつながる。JACET教育問題研究会のワーキンググループは2021年7月~9月に「中学校へのパスポート(仮称)」を作成するための予備調査を実施した。本資料は調査の概要と結果についての報告書である。調査参加者は首都圏の小学校3校の6年生児童合計9クラスの268名と教員10名である。 【共著者名】米田佐紀子、土屋佳雅里、山口高領
10 「オープニングで学びのエンジンをかけよう」(査読付)	単著	令和4年3月	『新英語教育』 No.4 pp.8-9	英語の授業のその日のトーンを決めるのは授業の始まり・オープニングである。新学習指導要領実施以後、高度化した教科書、内容と向き合い、楽しく勉強していくのが難しい中での、小学校外国語教育での実践報告。学習者に「面白い!もっと知りたい!」気持ちがないと、学習意欲は生まれない。意欲・やる気を引き出すためには、まず子どもが理解できる指導内容であること、日常的で身近な話題、また、既知の情報(馴染みがある絵本など)を教材として取り入れるのは非常に効果的である。

11 「英語聴解で学習が困難な児童を発見するための研究」	共著	令和4年3月	『千葉商科大学紀要』2022 (印刷中)	英語聴解に困難を持つ英語の学習障害(LD)を持つ学習者を発見するための調査方法の開発である。日本には子どもの英語学習におけるつまづきを認識するためのテストも、さらに小学生レベルの英語音声の学習困難について調査した研究もない。そこで、小学校3、4、5、6年生を対象に、英単語の音を聞いて、その単語が示すイラストに反応するテストを作成するための予備調査を行った。その結果をもとに、修正テストを完成させた。 【共著者名】酒井志延、 <u>土屋佳雅里</u>
12 Preliminary Study for the Development of a “Passport to Junior High School”	共著	令和4年6月	Language Teacher Education Vol.9 No.2 pp.82-92	The working group of the JACET Education Problem Study Group conducted a preliminary study from July to September 2021 to develop a “Passport to Junior High School.” A survey was conducted to develop a “passport” that is a part of a language portfolio. This paper reports the overview and results of the survey. The participants were 268 sixth-grade students from nine classes and 10 teachers from three elementary schools in the Tokyo metropolitan area. The topic chosen and used for the survey was “Countries and Regions of the World.” The students were asked to check Can-Do self-assessment descriptors for five domains of the four skills they thought they were “able to do.” After that, their English teachers checked the credibility of each child’s self-assessment. Based on the results, 57.1% of the students’ responses were “generally credible,” in line with the teacher’s observations, and 34.0% of the students’ responses were “about half credible.” These results indicated that the students’ self-assessments were generally credible, and so were the teachers. 【共著者名】米田佐紀子、 <u>土屋佳雅里</u> 、山口高領
13 「進化する機械翻訳に対応する大学1年生の授業開発：ライティング指導を中心に」	共著	令和4年11月	『千葉商科大学紀要』60巻2号、pp.1-15.	機械翻訳(MT)の発展が著しい。英語発信力の一つである「書くこと」能力の育成を重視し、大学の英語教育において、MTを使った授業で、自分で英語力を伸ばしながら、論理的で説得力のある英文エッセイを書く指導法を提案する。この能力は世界の人々と共同作業する時には非常に役立ち、まだ日本で確立されていない指導法である。複言語教育については、時間的な余裕があれば、英語以外の外国語にも挑戦させる。この能力の養成を目的とすれば、英語教育の必要性も改めて理解されると推察できる。 【共著者名】酒井志延、大勝裕史、 <u>土屋佳雅里</u> 、出野由紀子、白土さゆり

14 「小中をつなぐ教科書を考える」	単著	令和5年3月	『新英語教育』 2023年3月号	連載「入門期の英語指導を考える」において、重要な課題とされる外国語教育の小中接続をテーマに執筆した。小中接続・連携が上手くいかない声を聞く。2021年度からの新しい中学校英語教科書が難しくなったとの議論がある。これには小学校外国語科の影響が大きいといわれる。この課題について、小中教科書、とりわけ「語彙」に注目して議論した。
15 「進化する機械翻訳を大学の授業で使うための教員の役割についての研究」	共著	令和5年3月	『千葉商大紀要 第60巻 第3号. pp.1-16.	先行研究で示した質の高い英文を書かせる指導、MTを学習機として使わせる指導に加えて、実践を通して気づいた、MTを使った授業を効果的にする3つのことについて考察した。その3つとは：授業の動機づけはどうあるべきか、英語力を伸ばすためのシャドーイングの指導、論理的に説得するディベートの指導であった。 【共著者名】酒井志延、大勝裕史、 <u>土屋佳雅里</u>
16 『『小学校英語の指導者と指導体制』の問題を巡る文献検討－JASTEC Journal 掲載論文を中心として－』	共著	令和5年11月	『日本児童英語教育学会 JASTEC 紀要』. 第42号. pp.127-160.	JASTEC 関東甲信越支部では、指導者と指導体制の実態を明らかにすると同時に、指導者に応じた実践や指導体制作りの好事例を積み上げ、指導者の養成と研修に対する示唆を得ることを目的として、3ヶ年に亘る研究計画を以て「小学校英語指導者・指導体制研究部会」を立ち上げた。本稿は、文献研究チームの1年目の活動報告として小学校英語の指導者と指導体制に焦点を当て文献情報をまとめたものである。 【共著者名】狩野晶子、宮本弦、長田恵理、鈴木さおり、丹藤永也、 <u>土屋佳雅里</u>
(その他)				
(口頭発表)				
1 “A New Horizon for Early English Education in Japan”	共同	平成26年8月	AILA World Congress, Brisbane	The purposes of the study are 1. To argue about why we need Reading Recovery for early English education in Japan, 2. To introduce how the theory and practice in Reading Recovery can be applied to early English education in Japan, 3. To propose a new teaching approach to lead Japanese elementary school children to acquire the foundation of English ability, which will help them learn English in junior and senior high schools. 【発表者】小野尚美、高梨庸雄、 <u>土屋佳雅里</u>
2 「外国語活動における【言語と文化に関する気付き】を深める指導－『Hi, friends! 2』の授業実践から－」	単独	平成28年8月	第42回 全国英語教育学会 (JASELE) (於：獨協大学)	小学校外国語活動における【言語と文化に関する気付き】を深める指導についての実践報告。文部科学省のテキスト『Hi, friends! 2』 Lesson 1を基に、【言語や文化に関する気付き】を促す15分完結型の2つの活動を付加し、展開した (①1つの言葉を8言語で表現

				し比較 ②言語景観（身近と都心の比較））。
3「児童の異文化間能力を促す英語授業の検討 J-POSTL(言語教師のポートフォリオ)の記述文を中心に」	共同	平成 28 年 10 月	第 36 回日本児童英語教育学会 (JASTEC) 秋季研究大会 (於: 大阪成蹊大学)	言語教師に求められる資質能力を可視化する J-POSTL(言語教師のポートフォリオ)の IC 教育に関する項目に注目し、「文化と言葉の関係性に気づかせる」指導や「社会文化的な価値観の類似点と相違点を気付かせる」指導がどのように計画・実践できるか検討した。 【発表者】中山夏恵, <u>土屋佳雅里</u> , 若松里佳
4 「小学校の英語授業における児童の異文化間能力を育成する指導の意義と可能性」	共同	平成 29 年 3 月	言語教育エキスポ 2017 (於: 早稲田大学)	小学生対象の英語授業に異文化間教育の視点を組み込んだ実践例を紹介し、その意義と実践に際し考慮すべき課題について検討した。 【発表者】中山夏恵, <u>土屋佳雅里</u> , 宇田川きのみ, 金藤明美, 若松里佳
5 「子どもたちの声から探る文字指導」	単独	平成 29 年 3 月	JACET 教育問題研究会 (於: 関西外国語大学)	Differentiated Instruction; DI (個々のレディネスや興味・関心、背景の文化によって形づけられてきた世界の見方や経験に応じて多様性を活かす指導法) を参考に、言語や文化への気付きを促す活動において多様性を活かす試みを提案した。
6 「外国語の世界が【もっと】広がる、外国語としての視点から見つめる外国語活動」	単独	平成 29 年 7 月	「一貫教育における複言語能力養成のための人材育成・教材開発の研究」(代表者: 境一三) (於: 慶應義塾大学)	英語原則は子どもたちの外国語の世界・視野を狭めてしまい、外国語の学びが貧弱になってしまう恐れがある。そこで、他言語を用いて外国語の視点から見つめる活動を行ったところ、子どもたちに言語への興味関心の高まりや学習意欲が観察された。
7 「言語教師の成長を可視化する J-POSTL【小学校英語指導者編】を体験してみよう」	共同	平成 30 年 3 月	言語教育エキスポ 2018 (於: 早稲田大学)	教育の質を確保するためには、指導者の資質・能力の指針が求められる。幸い、既存の J-POSTL を基に J-POSTL【小学校英語指導者編】草案が開発された。草案の一部を使って具体的活動事例について考えた。 【発表者】竹田里香, 若松里佳, <u>土屋佳雅里</u> , 久村研
8 「言葉から世界をみてみようーことばと文化・社会・経済の関係性への気づきを促す指導」	単独	平成 30 年 4 月	「小学校における異文化間能力を育む指導について考える会」中山夏恵科研発表会(於: 中央大学)	商品に記載される日付表示の地域・国による違いを提示して背景にある文化や習慣の違い、さらに、世界でヒットする日本企業の商品パッケージの写真や言葉から、言語と社会・経済との繋がりへ気づきを得る指導を行った。
9 “Developing Linguistic and Intercultural Awareness in the EFL Context in Japan.”	単独	平成 30 年 6 月	The 16th Asia TEFL 1st MAAL & 6th HAAL 2018 International Conference, Macao,	This research involves discovering how the Japanese students developed linguistic and intercultural awareness in the English as a Foreign Language (EFL) classroom in Japan.
10 「移行期間における ICT 使用の可能性ー外国語の学びをもっと豊かに!ー」	単独	平成 30 年 7 月	第 39 回日本児童英語教育学会全国大会 (於: 昭和	小学校外国語教育において、ICT を新学習指導要領の全面実施への移行措置期間で活用し、小学校外国語教育の学

			女子大学)	びをより豊かにしようとする活動と、ICTの活用方法を提案した。
11 「省察ツール J-POSTL 【小学校英語指導者編】 の課題と展望 パイロット調査より」	単独	平成 30 年 7 月	第 18 回 JES 全国大会 (長崎大会)	『成長のための省察ツールー言語教師のポートフォリオ (J-POSTL) 』 (JACET 教育問題研究会, 2014) 【小学校英語指導者編】 を元に、様々な立場の指導者や教職課程に関わる大学教員に草案を試用してもらい、アンケートを実施結果から見える課題と今後の展望について検討した。 【発表者】竹田里香, <u>土屋佳雅里</u> , 若松里佳
12 「小学生に英文字の適切な手書き指導をするために」	共同	平成 30 年 8 月	KATE (関東甲信越英語教育学会) 第 42 回栃木研究大会 (於: 白鷗大学)	英文字学習の初期段階での小文字の習得の具体的な指導及びサポートの方法を検討し、提案する。 【発表者】 <u>土屋佳雅里</u> , 阿部志乃, 酒井志延
13 「小学生からの英語の疑問に答える」	共同	平成 30 年 8 月	JASELE (全国英語教育学会) 2018 京都大会 (於: 龍谷大学)	2017 年 9 月から児童や小学校教師に調査紙調査およびインタビューを実施して外国語に関する疑問の収集を開始し、2018 年 5 月時点で集められた疑問は 125 件あった。本発表では児童目線の疑問を集約、分類して提示し、複数の立場からの回答を提案した。 【発表者】酒井志延, 竹田里香, 安田万里, <u>土屋佳雅里</u>
14 「『言語教師のポートフォリオ (J-POSTL) 』【小学校英語指導者編】 の開発をめぐって」	共同	平成 30 年 8 月	The 57th JACET International Convention (於: 東北学院大学)	本シンポジウムでは、『言語教師のポートフォリオ (J-POSTL: Japanese Portfolio for Student Teachers of Languages) 』 (JACET 教育問題研究会 2014) を基盤として開発した J-POSTL 【小学校英語指導者編】 (略称: 「J-POSTL エレメンタリー」) の 167 の自己評価記述文を、小学校英語指導者のコア・コンピテンスとして提案した。 【発表者】久村研, 長田恵理, 成田潤也, 阿部志乃, <u>土屋佳雅里</u>
15 “The effect of linguistic and intercultural awareness activity in a Japanese elementary school”	共同	平成 30 年 9 月	JUSTEC (第 30 回日米教員養成協議会 年次大会) (於: 佛教大学)	This presentation discusses how intercultural awareness would have some impact on students and explains how to introduce other cultures in a foreign language learning context and improve pupils' learning attitudes. The comments of pupils after a lesson showed that most of them had positive attitudes toward learning English and raise their awareness toward other cultures and foreign languages. 【発表者】安達理恵, <u>土屋佳雅里</u>
16 「異文化間能力を促す活動案の提案 移行期用教材『We Can!』に注目して」	共同	平成 30 年 10 月	日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第 38 回 秋季研究大会	本発表では、小学校外国語教育移行期教材『We Can!』から発展させた異文化間能力 (IC) 活動を提案し、活動を計画する際の要点を検討した。 【発表者】中山夏恵, 若松里佳, 成田潤也, <u>土屋佳雅里</u>

17 “Acknowledging Multi-culture in Elementary Schools”	共同	平成 30 年 11 月	44th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition	Presenters will report questionnaire results from an area with a substantial number of non-Japanese residents, focusing on how the students acknowledge diverse situations. Analysis of what elements could help enhance positive attitude of elementary schools students towards diversity should give helpful insight into curriculum implementations. 【発表者】狩野晶子, 神谷勝仁, <u>土屋佳雅里</u>
18 「小学校外国語教育における地域人材の問題の研究」	単独	平成 31 年 3 月	言語教育エキスポ 2019 (於: 早稲田大学)	全国から指導経験豊富な地域人材を地域別に 10 名選定し, 実施した半構造化インタビューから, 地域人材の実態を明らかにし, 今後の小学校外国語教育での展望を検討する。
19 「小学生から取り組めるポートフォリオ ラップブックを作ってみませんか」	共同	平成 31 年 3 月	言語教育エキスポ 2019 (於: 早稲田大学)	ラップブックは, 一つのテーマについて取り組んだ学習の成果物や自主的に記録した情報のメモを, 紙製の個別フォルダの中に貼ったもので, 小学生から大人まで取り組むことができる。学習内容や学んだことが全て記録され, ひと目でわかるため, 学習者, 教員, 保護者の 3 者で学習過程や成果を具体的な形で共有できる方法となりうる。本ワークショップでは実際に児童が作成したラップブックを紹介しながら, 参加者はラップブック作りを体験した。【発表者】阿部志乃, <u>土屋佳雅里</u> , 若松里佳
20 “Promoting the dissemination of digital textbooks in foreign language education at elementary schools in Japan”	単独	平成 31 年 3 月	International Conference March 2019 Educating the Global Citizen International Perspectives on Foreign Language Teaching in the Digital Age March 25th - 28th, 2019 University of Munich	Japanese school educators are encouraged to use information and communication technologies in their classrooms. In particular, the use of digital textbooks is being promoted. In order to realize the dissemination of digital textbooks, future efforts must include the "enhancement of digital content" and "reforming the awareness of teachers and publishers."
21 “Issues of Utilizing External Human Resources in Foreign Language Education in Japanese Elementary Schools”	共同	平成 31 年 6 月	The 17th Asia TEFL International Conference and the 6th FLIT International Conference JUNE 27th - 29th , 2019 Ambassador Hotel, Bangkok, Thailand	Formal foreign language education will start soon at elementary schools in Japan. There are still some problems. This research focuses on the theme concerning "who teaches." The problem is based on lack of qualified English teachers in elementary schools in Japan. Elementary school teachers have not been and are not required to take English teaching course. Therefore, it is difficult for most of them to teach English properly. Then, local people outside schools can help solve this problem.

				<p>There are called outside human resources. In reality, many schools rely on them. However, there are very little research on them. In order to consider proper teaching system, it is necessary to clarify the facts of local human resources. In this research, the semi-structured interview was conducted to the selected outside human resources. As a result, it was revealed that outside human resources will become the good models of an English instructor for the classroom teachers, and the image of the way of teaching English.</p> <p>【発表者】<u>土屋佳雅里</u>、酒井志延</p>
22 「小学校教育におけるアルファベット指導に関する一考察」	単独	平成 31 年 8 月	KATE (関東甲信越英語教育学会) 第 43 回神奈川研究大会 (於: 横浜国立大学)	<p>本研究では、小学校国語科のローマ字教育と小学校外国語教育のアルファベット指導に関する過去の研究をレビューし、今後のローマ字指導および小学校外国語教育におけるアルファベット文字指導について検討する。</p>
23 「小学校外国語教育における外部人材 (地域人材) の問題」	単独	平成 31 年 8 月	JASELE (全国英語教育学会) 2019 弘前大会 (於: 弘前大学)	<p>本研究では外部人材、特に地域人材のインタビューから浮かび上がる、小学校外国語教育における指導者体制について検討した。</p> <p>【発表者】<u>土屋佳雅里</u>、酒井志延</p>
24 「児童の発達段階に即した異文化理解活動の提案 一色の捉え方の文化差に注目して」	共同	平成 31 年 10 月	日本児童英語教育学会 (JASTEC) 秋季研究大会 (<p>小学校段階において、同じテーマを題材に異文化間能力 (IC) を促す指導を計画・実践する際、児童の発達段階に配慮すると、学年に応じてどのように深められるか、またその結果としてどのような IC 要素が育まれるか、中学年及び高学年を対象とした実践例を挙げながら論じる。テーマとしては、移行期用教材に頻出する「色」を取り上げる。なお、IC 要素の分析には、欧州評議会による IC 育成を推進する「ことばと文化の複元的アプローチ参照枠 (FREPA, 2010)」の記述文を参照する。</p> <p>【発表者】中山夏恵、成田潤也、<u>土屋佳雅里</u></p>
25 「小学校外国語科における語彙・辞書指導に関する一考察 小学校現職教員対象の全国調査結果が示唆すること」	共同	令和 2 年 8 月	第 13 回 JACET 関東支部大会	<p>2018 年に全国の小学校現職英語指導者対象として小学校外国語教育において求められる資質・能力の必要度について質問紙調査を実施したところ、必要度が低いと判断された記述文に語彙と辞書指導に関するものがあつた。そこで、比較的必要性が低いと判断された上述の 3 つの記述文に加え、中等教育での経験の有無に応じて必要性の判断に差があつた 2 つの記述文に注目し、小学校外国語科における語彙と辞書の指導の在り方について考察し、何らかの示唆を提供する。</p> <p>【発表者】中山夏恵、<u>土屋佳雅里</u>、山口高領</p>

<p>26 「小学校外国語科の教科書分析研究－語彙の観点から－」</p>	<p>単独</p>	<p>令和2年10月</p>	<p>第20回小学校英語教育学会 中部・岐阜大会</p>	<p>2020年4月から第5、6学年において使用されている小学校外国語科の検定済教科書(7社、14冊)では、指導内容や方法等において各社ごとの特徴がある。語彙の観点から教科書を比較・分析し、語彙内容の実態を把握した上で、使用語彙の適切さや課題について考察する。</p>
<p>27 「児童の異文化間能力(IC)を育む外国語の授業－その意義と授業づくりの視点－」</p>	<p>共同</p>	<p>令和2年10月</p>	<p>言語教育エキスポ2020 補講</p>	<p>グローバル化の加速に伴い、異なる背景を持つ人々と交流する機会はますます増加する。そのような社会に生きる子ども達に、自文化・異文化を超えた「第3の場所(Kramersch, 1993)」に立ち、文化間を仲介する力を育むことは、21世紀に求められグローバルスキルの一部としても重要になる。本発表では、移行期用教材『We Can!』を用いて、IC育成を意図した実践2つを取り上げ、その意義と授業づくりの視点について考察する。 【発表者】中山夏恵、成田潤也、<u>土屋佳雅里</u></p>
<p>28 「小学校教育でのアルファベット指導に関する研究の考察(英語指導におけるローマ字指導の議論)」</p>	<p>単独</p>	<p>令和2年10月</p>	<p>言語教育エキスポ2020 補講</p>	<p>小学校教育では、アルファベットを用いる指導が、国語科の日本語としてのローマ字指導と外国語活動・外国語科の英語としてのアルファベット指導の2つの学習で並行して行われており、議論や混乱・誤解が生じている。その原因の1つは、同じアルファベットを用いる点で、2つの指導が混同されてしまうこととみられる。本研究では、小学校教育における2つの指導に関わるアルファベット指導をめぐる研究をレビューし、議論の整理を行いながら混乱・誤解について考察し、今後の指導への展望を検討する。</p>
<p>29 「児童に対する英語絵本の読み聞かせ活動を通じた教職履修生の意識の変容」</p>	<p>共同</p>	<p>令和2年12月</p>	<p>第3回 JAAL in JACET (日本応用言語学会)</p>	<p>本研究では、教職履修生の内希望者対象に、大学図書館内の児童室にて地域の子どもたちに向けた英語絵本の読み聞かせ活動を計画・実践し、学生の意識の変化を調査した。分散分析の結果、2回の調査間で自信の度合いについて変化は観察されなかった。一度限りの実践であったことが影響した可能性が指摘できる。一方、記述データからは、実践前に、児童の「内容理解(10件)」に集中していた意識が、実践後は、「雰囲気作り(7件)」や「児童の反応(11件)」の重要性に気付く様子が観察された。 【共著者名】中山夏恵、<u>土屋佳雅里</u></p>
<p>30 「小学校英語学習ポートフォリオ開発－「聞くこと」と使用語彙、文化に関しての小学校検定教科書の分析をもとに」</p>	<p>共同</p>	<p>令和3年3月</p>	<p>言語教育エキスポ2021</p>	<p>教育問題研究会では、学習者自身が自分の英語学習を振り返る支援ツールとして「小学校英語における学習ポートフォリオ」の開発に取り組んでいる。この学習者のためのポートフォリオは、外国語学習の自立的な学習者支援</p>

				<p>ツールとして、学校現場での活用を期待している。知識や技能だけでなく、主体的・対話的で深い学びについてもつながる学習ポートフォリオの開発をめざしている。今回は、ポートフォリオの開発の基礎資料となる教科書の分析について発表をする。</p> <p>【発表者】清田洋一、竹田里香、松延亜紀、<u>土屋佳雅里</u></p>
31 「小学生が対象の英語聴覚語彙力に関するテストの開発」	共同	令和3年3月	言語教育エキスポ2021	<p>英語学習に躓きがちな児童が対象の調査は無いため、その実態は明らかにされていない。本研究の目的は、英語の音声に対する聴覚能力の発達具合が低い児童を見つける機能を持つ小3から小6の学年別に実施する聴覚語彙力テストの開発である。予備調査を経たテストを、全国の5校の計957名で実施した結果、(1) 開発したテストは上位層と下位層の児童を識別することができ、(2) 開発したテスト結果が全国的に同様な傾向を示した。</p> <p>【発表者】酒井志延、<u>土屋佳雅里</u></p>
32 「小学校外国語科におけるIC育成の意義と授業づくりの観点」	共同	令和3年3月	ESTEEM 小学校テーマ別英語教育研究会	<p>主に高学年の外国語科におけるICを育む授業づくりについて検討するため、ICの育成可能性に対する教員の意識調査の結果から、発達段階に応じて指導できるIC要素について報告する。その後、移行期用教材『We Can!』を用い、IC育成を意図して計画・実践された2つの活動例を紹介し、その意義と授業づくりの観点について考察する。</p> <p>【発表者】中山夏恵、成田潤也、<u>土屋佳雅里</u></p>
33 「大学英語教育における児童英語指導法の一考察—Classroom English 指導にフォーカスして—」	単独	令和3年8月	"The JACET 60th Commemorative International Convention JACET 60th 国際大会 (Online, 2021) "	<p>小学校外国語教育の本格的な導入に伴い、児童英語を指導できる教員のニーズが高まっており、大学英語教育でも児童英語指導法を習得できる科目が設置されている。発表者は、私立大学英語関係学科などにおいて、児童英語指導法の科目を担当している。講義トピックは児童英語教育をめぐる理論および指導法（歌・チャンツ、絵本・物語の活動等）と多岐にわたるが、注目したいのはClassroom English（以下、CE）である。大学英語教育では、CEに特化した科目は少ない。しかし、英語での授業運営は中学・高校英語で基本とされることから、適切なCEの運用力は小学校から重視されている。そこで、本発表では、2019年以降の児童英語指導法の授業実践（目標、授業計画、内容、授業コメント等）を報告しながら、特に Classroom English に焦点をあて、考察する。</p>

<p>34 「外国語科・小中連携の一考察 一語彙レベルにおける小中外国語科の教科書分析」</p>	<p>単独</p>	<p>令和3年10月</p>	<p>第21回 小学校英語教育学会 (JES) 関東・埼玉大会</p>	<p>小学校外国語科(第5,6学年)の教科書化により使用される検定教科書(全7社14冊)は、各出版社に特徴があり、自治体や学校等で採択する教科書によっては指導内容に差異が生じる可能性がある。そのため、発表者は発行年度に小学校外国語科の教科書を、特に語彙レベルに焦点をあてて分析した。すると、各社教科書が重視する語彙(群)、さらに受容語彙と発信語彙の扱い方の傾向を捉えることができた。そして、2021年4月に中学校外国語科(以降、中学校英語)検定教科書が改訂された。小学校での外国語(英語)の学びが、いかに中学校以降の英語の学びに繋がっていくかが非常に重要である。そこで、本発表では、小中連携の現状および課題を検討するために、中学校1年外国語科教科書の小中を繋ぐページといえる本文前Unitを、先行の外国語科教科書分析の研究結果と併せ、語彙レベルに焦点をあてて分析し、考察した。</p>
<p>35 Problems of Alphabet Acquisition in Japanese Elementary Schools -Confusion and Misunderstanding Caused by Teaching the Alphabet Letters in the Different Two School Subjects in the Same Third Grade, Japanese Language Education and Foreign Language Education-</p>	<p>単独</p>	<p>令和3年12月</p>	<p>19th AsiaTEFL International Conference 2021 Online</p>	<p>In the Japanese language class of elementary school education, students begin learning Hiragana letters, Katakana letters, and Chinese characters in the first grade, and learn Roman letters to write Japanese in the third grade. In addition, in Foreign Language Activities starting with the same third grade, the students start learning English alphabets. In other words, teaching using the alphabet letters is performed in the different two school subjects in the same third grade, "Learning Roman letters as Japanese language in Japanese class" and "Learning English alphabets as English language in Foreign Language Activities." There is a lot of confusion and misunderstanding among children, teachers, researchers and others. " In this research, I review the studies of alphabet teaching in elementary school education in Japan, discuss the confusion and misunderstandings that occur between the two teachings, and examine the prospects for alphabet teaching in Japanese elementary education in the future.</p>
<p>36 「小学校英語学習ポートフォリオ：「中学校へのパスポート(仮題)」の開発」</p>	<p>共著</p>	<p>令和4年3月</p>	<p>言語教育エキスポ2021</p>	<p>教育問題研究会では小学校での自律的な学習の支援をめざし、「小学校英語における学習ポートフォリオ」の開発に取り組んでいる。その構成要素の1つとして、今年度は「中学校へのパスポート(仮称)」を開発した。具体的には、5,6年生用の検定教科書を精査し、小学校での学習目標となる自己評価のための記述文をトピック別の技能編と文化編に特定した。 【共著者名】清田洋一, 栗原文子, 土屋佳雅里, 山口高領, 米田佐紀子</p>

37 「小学校外国語科の語彙学習におけるポートフォリオの活用」	単 独	令和4年3月	言語教育エキスポ2021	小学校外国語科の検定済教科書（英語）（7社、15冊）は、各社で指導内容や方法等に特徴がある。そこで、本研究では主要教科書（3社、7冊）を語彙レベルで分析し、外国語活動・外国語科の目標・指導内容等で参照されているCEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）に基づくELP（European Language Portfolio）能力記述文を参考に、自律した学習者を育成する外国語科の語彙学習を考察しながら、語彙学習における学習ポートフォリオの有用性と活用方法を提案する。
38. 「「中学校へのパスポート」実践報告」	単 著	令和4年7月	「「中学校へのパスポート」の実践報告会」早稲田大学 神保尚武科研	「中学校へのパスポート」はJACETの研究会の1つである教育問題研究会の学習ポートフォリオ開発委員会によって、現行の検定教科書を基にして策定された。外国語学習は、本来は学習者個人のニーズに沿って、自分に適したペースで行うのが望ましい。このような自律性は学習に対する態度や習慣にも関係するので、学習の初期段階から意識的に身につけていくよう支援することが重要である。「中学校へのパスポート」で扱う英語学習の自己評価記述文は、このような考えを背景に児童の自律的な英語学習を支援するポートフォリオの一部として開発された。児童が自分の学びを振り返り、評価する機会を提供するツールとして、自律的な学習の支援に活用できることを目指す。
39. 「小学校高学年の英語文字学習における躰きの視覚化の試み～文字一音対応・語彙・音韻意識の多角的分析」	共 著	令和4年7月	第22回 小学校英語教育学会（JES）全国大会（四国・徳島大会）	英語の読み書きの基礎作りは小学校から始まる。本調査は小学校でのアルファベット文字と音の対応、語彙、音韻意識など複数のテストを用い、領域ごとの習得状況を視覚化することで、担当が個別の学習ニーズを把握し、特にその躰きに対して早期に課題に対応できる環境づくりを目指す。本発表は小学生の英語の読み書きチェックテスト作成に向けた予備調査の報告である。 【共著者名】村上加代子，宮谷祐史，土屋佳雅里，村田美和
40. 「自律した学習者を育む「小学校英語学習ポートフォリオ（言語学習記録）」の開発を目指して」	共 著	令和4年12月	第5回 JAAL-in-JACET（日本応用言語学会）学術交流集会 於：立命館大学 大阪 いばらきキャンパス	新学習指導要領では、育成すべき資質・能力や学習評価の観点において、学習者の主体的な学びが重視されている。言語学習の文脈で、自律的学習者の育成につながるリフレクション・ツールとしてヨーロッパ言語ポートフォリオ(ELP)がある。これはCEFRの理念を実現すべく開発された学習ポートフォリオで、言語パスポート、言語学習記録、資料集の3部から成る。その内言語学習記録は、学習の目標設定、振り返り、評価、成長という過程に学習者が関わられるよう促すものと捉えられている（欧州評議会，2011）。筆者らは、この教育的機能に注目し、日本の児童が自らの外国語学習に責任を持って取り組むよう促すツールとして 日本版「言語学習記録」の開発を

				試みた。 【共著者名】中山夏恵・土屋佳雅里
41. 「小学校外国語教育のデジタル教科書を考えるシンポジウム」	共著	令和5年3月	言語教育エキスポ 2023	英語のデジタル教科書（以降、デジ教）の2024年度からの本格導入に先立ち、2022年度から引き続き2023年度にも実証事業として、小学5年生から中学3年生に無償提供される。本格導入が迫る中、デジ教の活用方法はもちろん、その他のICT活用についての検討は喫緊の課題と言える。本シンポジウムでは、現場教員によるデジ教及び各種ICTツールの使用事例及び率直な使用感報告や今後への提案を通して、デジ教等の効果的な活用法について検討していく。 【共著者名】土屋佳雅里・下平悟・赤井晴子・成田潤也
42. 「小学校英語における学習ポートフォリオの可能性：『中学校へのパスポート』および『言語学習記録』を活用した実践と課題」	共著	令和5年3月	言語教育エキスポ 2023	JACET教育問題研究会が2022年3月に発行した小学校英語学習到達目標としての自己評価記述文（「中学校へのパスポート」）を活用した3名の指導者による1年間の小学校現場での実践と実践から見えた課題について報告する。また、到達目標を單元ごとにカスタマイズしながら授業の中に落とし込み、児童が自らの学びを振り返るための言語学習記録（「言語バイオグラフィ」）の開発についても報告し、日本の文脈における学習ポートフォリオの可能性について検討する。 【共著者名】清田洋一、米田佐紀子、中山夏恵、土屋佳雅里、押田真裕子、黒木愛、栗原文子
43. 「小中接続を教科書から考える」	単著	令和5年3月	第20回教科書著者による小・中・高教科書指導法ワークショップ、ELEC同友会	小学校外国語科の教科化で教科書が登場し、2021年度からの新しい中学校英語教科書が難しくなったとの声がある。そこで、校種別に相応しい学びを考えながら、小中をいかにつなぐか？について、教科書から考える。
44. A Study on Identification of Children with Learning Difficulties in Listening Comprehension and Semantic Comprehension of English Vocabulary	共著	令和5年7月	AILA (International Association of Applied Linguistics) @Lyon, France.	The authors first identified learning difficulties and factors that may be associated with them in 2020, developed a test to identify children with difficulties in listening to and recognizing English vocabulary, and administered it to 957 children. The results identified specific words that might identify children with vocabulary listening difficulties. 【共著者名】酒井志延、土屋佳雅里
45. A Study of Motivation Through Film in Japanese University English Education	共著	令和5年8月	AsiaTEFL. International Conference @Daejeon, Korea.	The purpose of this study is to explore the possibility of motivating students to learn English in a university English class based on their cultural acceptance through movies and their awareness of language contrasting Japanese and English.

46 . A Discussion on the Paradigm Shift in English Language Teaching Brought About by Machine Translation (共著	令和5年8月	AsiaTEFL. International Conference @Daejeon , Korea.	As for the English proficiency of Japanese who do not use machine translation (MT), the level of B2, the level at which English is usable, is at most 10% even among university graduates. Thus, if this trend continues, it will be difficult for many Japanese to have the ability to use a foreign language. Therefore, a paradigm shift to a concept of English acquisition utilizing MT will be important. 【共著者名】酒井志延、大勝裕史、 <u>土屋佳雅里</u>
47. 「映画による大学英語教育への動機づけ」	単著	令和5年9月	ATEM 中部支部 再建懇談会主催 第1回 多言語・多文化研究会	本研究は、大学英語授業において、映画を通じた文化受容及び日本語と英語を対照とする言語への気づきから、英語学習に対する動機づけの可能性を探ることを目的とした。
科研費				
1. 科学研究費助成事業 採択研究 「2020年度 / 令和2(2020)年度 基盤研究 (C) 課題ID 20K00851 / 研究開発課題名 「共生社会を目指す教育の実現のための学習障害児童への英語学習支援の統合的研究」	共同	令和3年4月～令和6年3月		2020年度から小学校から高校までの一貫した英語教育が実施されることになった。小中高連携を円滑にかつ効果的に実現するためにも、すべての学習者にとってわかりやすくかつ柔軟な指導がなされることが望ましい。特に学習障害児童の英語学習時における困難調査はこれまでほとんど実施されていない。本研究は特に重要な学習導入期の小学校に焦点を当て、他教科における躰きと英語学習時の躰きを関連させながら、教員を対象とした「気づきのためのチェックリスト」の開発、児童を対象とした「英語のアセスメントテスト」そして躰きをUDLの枠組みに対応させた「教材・指導案データベース」の開発を目標とする。 研究代表者：村上加代子（甲南女子大学・人間科学部・准教授） 研究分担者：村田美和（高崎健康福祉大学・人間発達学部・講師）、酒井志延（千葉商科大学 商経学部 教授）、 <u>土屋佳雅里</u>
2. 科学研究費助成事業 採択研究 「2021年度 / 令和3(2021)年度 基盤研究 (C) 課題ID 21429583 / 研究開発課題名 「機械翻訳を使いリメディアル教育を必要とする学習者の学習支援のための総合的研究」	共同	令和4年4月～令和6年3月		オンライン機械翻訳（以下、MT）は、その利便さ故に多くの人に使われているが、その教育における可能性についてはあまり解明されていない。本研究はMTを外国語学習機器として、リメディアル学習者に使用する研究を行

			<p>う。そのため、「1.英文法の修正指導研究」および「2.複言語教育の研究」に注力を注いでいく。</p> <p>研究代表者：酒井志延（千葉商科大学 商経学部 教授）</p> <p>研究分担者：大勝裕史（千葉商科大学 基盤教育機構講師）、<u>土屋佳雅里</u></p>
--	--	--	---

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。